

会 議 録	
会議の名称	令和6年度第2回清須市地域公共交通会議
開催日時	令和6年10月15日（火） 午後2時から午後3時45分まで
開催場所	清須市役所南館3階 大会議室
議題	1 開会 2 議事 〔協議事項〕 第2次清須市地域公共交通計画（素案）について 3 その他 4 閉会
会議資料	会議次第、委員名簿、配席表 〔会議資料〕 資料1 地域公共交通に関する市民意見交換会の実施結果 資料2 地域公共交通の基本的な方針 資料3 地域公共交通計画の目標・達成指標・実施施策・効果 参考 令和6年度清須市地域公共交通会議スケジュール
公開・非公開の別 (非公開の場合はその理由)	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	前田委員、山田委員、林（巖）委員、佐藤委員、柴田委員、加藤（榮）委員、鬼頭委員、加藤（博）委員、宮川委員（代理）、石屋委員（代理）、多田委員、小林委員、大島委員、福田委員、河口委員、鈴木委員、豊田委員、高井委員（代理）、林（尚）委員
欠席委員	吉金委員、荻田委員
出席者（市）	なし
事務局	（企画部企画政策課） 林次長兼課長、山口課長補佐、神野課長補佐兼企画政策係長、秋山副主幹、蜂矢主任、市江主任 （株式会社日本海コンサルタント） 塩土本部長、備後サブリーダー、小村氏
会議録署名委員	山田委員、林（巖）委員
<p>1 開会</p> <p>（神野課長補佐兼企画政策係長） 定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第2回清須市地域公共交通会議を開会します。 私は企画政策課の神野と申します。よろしくお願いたします。 それでは開会にあたりまして、前田会長からごあいさつをいただきたいと存じます。前田会長、よろしくお願いたします。</p>	

(前田会長)

皆様、こんにちは。

本日は、令和6年度第2回清須市地域公共交通会議へご出席いただきまして、ありがとうございます。

また、日頃、皆様には本会議の運営等に多大なご理解とご協力をいただいております。

あらためまして、お礼を申し上げます。

さて、本日の会議では、今年度策定する次期地域公共交通計画の素案について協議していただくこととなります。この計画の重要な方針に関わる内容ですので、忌憚のないご自由なご意見を賜りますよう、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、これで私のあいさつに代えさせていただきます。

(神野課長補佐兼企画政策係長)

ありがとうございました。それでは、本日の会議の出席状況について、ご報告します。

本日の欠席委員は、第4号委員で、愛知県尾張建設事務所維持管理課長の吉金委員と、同じく第4号委員で、愛知県警察本部西枇杷島警察署交通課長の荻田委員です。また、第3号委員で国土交通省中部運輸局愛知運輸支局主席運輸企画専門官の宮川委員におかれましては渥美様に、第4号委員で愛知県都市・交通局交通対策課担当課長の石屋委員におかれましては藤原様に、第7号委員で名古屋鉄道株式会社地域連携部交通サービス担当課長の高井委員におかれましては上野様に代理でご出席いただいております。

加えて、事務局といたしまして、地域公共交通計画策定支援業務の受託事業者である、株式会社日本海コンサルタントの塩土様と備後様と小村様にもご同席いただいております。

皆様、どうぞよろしく申し上げます。

それでは、これより議事に入りますが、ここで、事務局からお願いがございます。

当会議の議事録を作成するため、会議でのご発言にあたっては、次の2点についてご協力をお願いいたします。

まず1点目ですが、ご発言にあたっては、必ず挙手の上、会長の指名を受けてください。

2点目ですが、会長の指名を受けた委員様には、係の者がマイクをお持ちいたしますので、その都度、ご自身のお名前を仰っていただいております。どうぞご発言くださいますよう、お願いいたします。

それでは、ここからの進行は前田会長にお願いいたします。

2 議事〔協議事項〕第2次清須市地域公共交通計画（素案）について

(前田会長)

それでは、ここからは私の方で会議の取り回しをさせていただきます

す。よろしくお願いいたします。

まず、はじめに 会議録署名委員を指名したいと思います。

本日の会議の会議録署名委員は、山田委員と林委員にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の議事に入ります。

本日の議事につきましては、お手元の次第のとおり、協議事項が1件です。

「協議事項」に入ります前に、前回の会議から鉄道事業者の皆様にもご参画いただいておりますので、ここでそれぞれの鉄道の利用状況等をご紹介いただきたいと思います。そうすれば、今後の会議もスムーズに執り行うことができる1つの材料になるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、最初にJR様、よろしくお願いいたします。

(豊田委員)

JR東海の豊田でございます。よろしくお願いいたします。

私の方から、まず枇杷島駅の利用者数でありますけれども、一番のピークは平成29年ぐらいだったんですけども、その後コロナ禍になりまして、令和2年が一番低かった状態になっております。その後令和5年まで大分回復してきておりまして、枇杷島駅で乗車人員が3,882人で、ただコロナ禍前と比べるとまだ91%というところありますので、まだまだやっぱり戻ってきていないかなというふうに思います。

名古屋近郊を含めても、やはり9割強というところありますので、まだまだこれからかなと思っておりますけども、ただやっぱりいろいろ地元の企業さん、特にトヨタ系列さんに聞きますと、やはりリモートワークは大分ちょっと進んできてるというところありますので、なかなかコロナ禍前には戻らないと読んでおりますけども、とは言ってもですね、しっかり地元、特に学校もそうですけども、企業さんの足をしっかり確保していければと思っております。

そういうことでちょっと1つだけ私の方から、チラシを1枚配布させていただきます。

内容は、「conomichi」と言いまして、1年前からスタートしてる企画であります。こちらにつきましては、この沿線地域の自治体や事業者と連携して関係人口創出プロジェクトを推進しているというところありますけども、ちょうど1年前にですね、プレスで発表させていただきました。この内容ですけどもちょっと簡単に紹介させていただきたいと思います。

もちろん弊社の方もJR東海とJR東海エイジェンシーというグループ会社がございますけども、こちらですすね取り組みを始めておりまして、沿線地域の関係人口を創出するために、「conomichi」を活用することで、沿線地域の更なる発展に貢献していきたいと考えております。そうすることですすね、鉄道利用者も増えるし、地域の発展にも貢献できていくかなというふうに思っています。

様々な地域で、「conomichi」の連携パートナーを募集してるところでありましてですね、自治体さんも個人さんも一緒でありますけども、沿

線地域とJR東海グループの連携をさらに強化していきたいというふうになっております。特にこのねらいでありますけれども、沿線地域の地域づくりの担い手を増やしたいとか、あとはお客さんのニーズはいろいろありますけれども、例えばより深く地域と繋がる体験をしたいとか、そういうニーズがあると思っておりますけれども、そういう橋渡し役を弊社の方で、是非ともお手伝いできればいいなというふうに思っております。そして、この取組によって、中長期的には沿線地域も活性化して、都市から沿線地域の人口も増えてくるかなど。あと鉄道の利用者とかですね、JR東海グループの事業機会の創出にも繋がっていくかというふうに思っております。

特に今連携していただける地元の方が、このチラシの真ん中の書いてありまして、山梨県から滋賀県まで、記載しております。ちょっと一部参考でご紹介させていただきたいと思っておりますけれども、岐阜県の中津川市を紹介したいと思っておりますけれども、中津川市といいますと、栗が名産かなと思っております。でもやっぱり、地元聞いてみますと、栗の選別とか作業する方が非常に少ないということでもありますので、例えばこういう栗の作業の担い手の不足とかですね、様々な地域課題を解決することを目的として、この「conomichi」では栗拾いから、殻剥きの作業の途中に、栗を使ったランチを堪能しながら、栗農家さんもお手伝いいただくコンテンツをご用意しております。

もう1つちょっと紹介したいと思っておりますけれども、長野県飯田市につきましては、地元の南信州観光公社と連携して、全国的に竹林が問題なっていると思っておりますけれども、竹の伐採とか利活用を体験していくことで、様々な地域課題を解決することを目指しています。具体的には、例えば竹の伐採の体験とか、伐採した竹を利活用するための竹灯籠づくりとか、ワークショップや竹を活用したバーベキュー等、そういったコンテンツを用意しております。

滋賀県で言いますと、米原市がありますけれども、こちら地元近江長岡の空いた駅舎を使いまして、地元の近江長岡大好き倶楽部という団体さんがいまして、こちらと連携してカフェ事業を今年の2月から実施しているというものでありますので、社会的課題とか地域の個性を踏まえて、個性を捉えなおして、住民の方々と楽しく課題解決するきっかけを作ってその人々をつなぐことで、地方関係人口の創出ですとか、そういうことに貢献できればというふうに思っておりますので、もしご興味をお持ちであれば、私の方から関係部署につなげますので、またぜひ参考にさせていただければなと思っておりますのでよろしくお願いいたします。以上です。

(前田会長)

ありがとうございます。続きまして、名古屋鉄道様、よろしくお願いいたします。

(高井委員 (代理))

名古屋鉄道の上野と申します。本日はよろしくお願いいたします。

御社の方から前回依頼としていただきましたのが、清須市における名

鉄電車の利用状況というところを実証してきましたので、その点についてご説明をさせていただきます。

まず全体的な弊社の傾向といたしましては、JRさんと同じく、なかなかコロナ禍の前には戻らず、大体90%前後というところで推移をしている状況でございます。その中で、清須市内における名鉄電車の駅としては、合計7駅ございます。名鉄本線で言うと西枇杷島、二ツ杵、新川橋、須ヶ口、新清洲、犬山線の方でも下小田井駅がありますので、この計7駅というところがございます。

数値としては、令和5年度、2023年度の実績を確認させていただきまして、この7駅合計での乗車人数なんですが、年間で約340万人の方々が、ご乗車いただいているという状況でございます。乗降を合わせれば2倍弱という数字になるんですけども、乗車だけで言うと340万人という状況でございます。

このうち、市内の移動、今申し上げた7駅の間で、乗って降りたという数字で申しますと、年間で約7万人の方々が、その市内移動のために、名鉄電車をご利用いただいているという状況でございます。1日当たりで言うと約200人というところでございます。この数字としては、全体の2%ほどが、市内でのご利用というところで、名鉄電車を活用いただいているという状況でございます。

1点補足でございますが、この中には、弊社の係員の移動というところで、お客様対応ですとか券売機の両替ですとか、そういうところで須ヶ口駅から移動してるものもございますので、200人のうち、大体、20人ほどが、その人員の内数という形に当たりますんで、実際には1日平均180人前後の方々が、清須市内の移動利用があるというふうに推察をしているところでございます。

以上が事業実績の報告でございますが、弊社としても、利用促進ですとか、そういった取り組みについても口頭ではございますがご紹介させていただきますと、今年度2025年1月に須ヶ口駅発で、名鉄のハイキングというウォーキングのイベントの開催を予定をしております。

その他にもですね、今年度もやりましたが、枇杷島の分岐点、名駅へ行くときにある三角地帯で、車両撮影ですとか物品販売ですとか、そういったようなイベントをやらせていただいてまして、より広域にこの清須市に来ていただけるような、そんな取り組みについても開催をさせていただいております。

あとは最後になりますが、当社として今エリア版Ma a Sアプリということで“Cent X”という名前のアプリの展開をさせていただいております。こちらでは、自治体さんの取り組みのご紹介だったり、当然名鉄電車も運行情報のプッシュ通知とかそういったものも来るんですけども、それ以外にも、名鉄色を限りなく消そうということで、例えばJR東海様のチケットを、このCent Xアプリで取扱いさせていただいたりですとか、或いはコミュニティバスの時刻表や経路検索、そういったものにも対応しておりますので、より広い意味での公共交通利用促進というところに繋げていけるような取り組みを引き続きさせていただきたいというふうに考えております。弊社からは以上でございます。

(前田会長)

ありがとうございました。

続きまして、東海交通事業様、お願いいたします。

(林(尚)委員)

J R 東海交通事業鉄道部の林と申します。よろしくお願いいたします。

まず、ご利用状況というところから説明させていただきます。

清須市様に位置する城北線の駅ですけれども、弊社は枇杷島駅及び尾張星の宮駅こちらの2駅になります。大体昨年度ですと、年間にご利用乗車人数というのは2駅合わせて19万人弱といったところになります。それぞれの駅を見ていきますと、枇杷島駅、尾張星の宮駅ともに、やはり名鉄様J R 東海様と同様、コロナ禍前にはちょっと戻らないといった状況になっております。90%台といったところになってございます。

ただ枇杷島駅につきましては、昨年度と比べると若干上回っているとあったところ状況になってございます。

あと、取り組みというところなんですけれども、弊社でできることに限りはございますが、昨年ですと、例えば全線開通をしまして30年ちょうど経過しましたので、全線開通30周年キャンペーンといったことをしてございました。そこで、ヘッドマークを作ったり記念商品を作ったりといったところで関心を持っていただく取り組みをしてございます。

また今年度ですと、今使っておりますキハ11系という車両、こちら300番台の車両ですけれども、こちら車両製造でちょうど25周年ということになっておりますので、そちらのキャンペーンもやっている状況になっております。あと今月ですと、新たに商品を開発しましてそちらを販売開始ということで好評いただいているといったところになってございます。

最後ですけれども、ダイヤ改正がある際ですけれども、枇杷島駅におきましては、J R 東海様の東海道線と接続がございまして、こちらの利便性というところは非常に大事なものと認識してございます。ですのでダイヤ改正がある際にはJ R 東海様とも連携してですね、ご利用いただきやすい時刻となるように調整しているということで、引き続きそういった目線につきましても、お客様目線です、使い勝手がいいダイヤを引き続き検討していきたいと思っております。以上でございます。

(前田会長)

ありがとうございました。

ただいま各社から色々ご紹介いただきました鉄道状況等については、事務局におかれましては、今後の事業計画の策定や取り組み等にぜひ生かしていただきたいと思っておりますので、事務局の方、よろしくお願いをいたします。

では協議事項の議事に移りたいと思っております。

協議事項「第2次清須市地域公共交通計画(素案)について」を議題といたします。

事務局から説明の方をお願いします。

(市江主任)

【資料1を説明】

(前田会長)

ありがとうございました。

ただいま、事務局から報告がございました。ご意見、ご質問等がございましたら、挙手をお願いいたします。

(林(巖)委員)

林と申します。

あしがるバスが、今清須市内を運行しておりますが、これは、他市町にはみ出して巡回するという事は法律的にいろいろありますが、そういうことが可能なのか、なぜか言いますと、私は商売やっているんですけど、老人の方が見えて、病院なんかに通う場合に、清須の場合だと日赤だとか、そういうところが紹介されて行かれるんですけど、地元と言うと、北名古屋市の済衆館病院とか、あま市民病院とか、市外へ通院してみえる方が行くのが大変で、バス乗ってどこかで乗り換えて行かないかんで、そのままこっちから行けるバスがあれば利用できるとか、そういうことをちょこちょこ最近聞くようになったんで、そこらへんのところは行くことができないのか、何か方法で行かれてるとは思うんですけど、家族とか一緒にいれば送ってもらえるとかいうことが可能なんですけど、独り身の方も結構おられるんで、そういう方があしがるバスに乗って通えるような状態になるといいなと思います。うちも古い町並みで、あしがるバスのコースがないんで、ちょっと不便されてるとは前々から思ってるんですけど、道路が狭いんで運行するのはちょっと危ないとか、そういうところがどうなのかなというのがちょっと気になってるんで、これからそういう計画を策定されるならば、そういうこともちょっと頭に入れてもらえるもんなのかなと思いました。

それともう1件、別のことですが、先ほど名鉄さんやJRさんからちょっとお話がありましたが、地域でいろんなイベントをされてますし、努力されてました。私は、みずとびあで朝市をやってるんですよ。それで、過去みずとびあへ回ってもらって、いろいろJRさんの主催とか、名鉄さん主催で二ツ杵駅とか、須ヶ口駅で集合していただいて、そこから歩いて街を散策してということもありましたので、そういうこともこれから増やしていただくと、あしがるバスや電車で駅まで行って、そこから歩いて帰っていただくとか、そういうイベントみたいな形で、少しでも町の風景を見てもらうのと、電車を兼ねて一緒にやっていただけたらと思いました。以上です。

(市江主任)

事務局の市江です。

先ほど他の市町への乗り入れというご意見いただきまして、今まで清須市は、運行を開始した当初から高齢者や主婦層などの交通弱者の日中の市内の移動手段の確保をコンセプトとして、それに沿って、ルートや

ダイヤを見直して今の現状となっております。ただ、先ほどの目標9のところでも市民ニーズの把握といたしまして、定期的にアンケート調査等で市民の意見を反映できるようにしていくということで、市外への乗り入れ、延伸については法律で禁止されていることではないので、検討の余地はあると考えております。ですので、今いただいた意見や、アンケート調査が出てくる意見をもとに、次回のルート・ダイヤ改正のときにそういう視点を踏まえて、どのルートが適切なのか、今後検討していければなと思っております。

なお先ほど、済衆館病院へのアクセスというお話がありましたが、3年前、北名古屋市のきたバスがはるひ呼吸器病院の方に乗り入れていただいております。そこから乗り継いで済衆館病院の方にも行ける形となっておりますので、ぜひそのような行き方もご紹介いただければと思います。以上です。

(加藤副会長)

名古屋大学の加藤です。

他市への乗り入れは禁止されていないというか、何ら問題ないんで、禁止されていないっていうとなんかおかしいけど、一切制約はないです。

ただ、北名古屋は北名古屋でこういう会議をやって、そこで認めてもらわないと、安い運賃であるとか、道路的にここはちょっとまずいとか、そういうことをやろうとすると、この会議をそれぞれの自治体でやらないといけないということなんです。

なので向こうで嫌だって言われたらちょっと難しい。だから、今も出たように、はるひ呼吸器病院に北名古屋のバスが来ていますが、ここで協議して認めたということです。

あと私、豊山もやってますけど豊山の場合だったら名古屋の栄や小牧市役所に行ってるということですので、豊山は始まったときは行きたいところがなかったということなんで、最初から豊山の中だけで動くということは考えてなかったということです。

なので、可能性としては全然問題ないということです。ただ、実際行くとなると、時間かかるとか、遅れやすいとか、台数が必要になるとか、やっぱりちょっとよく考えて入れないといけないだろうなと思います。

(前田会長)

はい、ありがとうございました。

他に意見ございましたらどうぞ。

(山田委員)

山田です。

計画の基本方針の中に、障害者、要介護者の移動環境を整えるということですが、どのようにやられるか聞きたいということと、清須の中で、観光ルートというのはあるんですけども、そこへ、日曜日とか土曜日の日のときに、観光ルートにバスを走らせるとかね、そういうことも考えたほうがいいんじゃないかなというふうに思います。

それともう1つ、高齢者が免許返納したときに1年間は無償だよということですが、それ以後、1回100円、1日200円ということなんです。これ名古屋みたいに所得に応じて、いくら払ったら年間タダだよというようなことも考えたほうがいいんじゃないかなというふうに思うんですけども、そこら辺どうですかね。

私もボチボチ返納する時期になっているので、よろしく願います。

(市江主任)

事務局の市江です。

まず1点目の障害者や要介護者なども含めた移動環境の整備についてでございますが、こちらは目標③鉄道バスを利用できない方を対象とした移動手段の確保といたしまして、何か新しいことをこれから行うというわけではないんですけれども、これまで行ってきた障害者に対するタクシー助成であったり、福祉有償運送を継続して実施していくことで、移動できるような環境を整えるということで、今回基本方針の方にも記載させていただきました。

また、料金のお話がございましたが、ずっと100円でやってきておりました。市町村によっては運賃を引き上げたり、便数を減らしたりされている自治体があるんですけれども、料金体系の方も、今後のルート・ダイヤ改正に合わせて検討していきたいなと思っております。

(山田委員)

障害者と要介護者の移動手段ということで、今タクシーを利用できるよということですが、そのPRが少ないんじゃないですかね。皆さん知ってみえる方は知ってみえる、知らない方は知らないということで、障害者とかそういうご家庭に文書で回すとかね、どういうふうに利用したらいいのかっていうような文書とかそういうことを工夫しないと、広報そのものにも書いても読まない人もみえますから、その辺ちょっときちっとやっていただきたいなという要望でございます。以上です。

(鬼頭委員)

鬼頭です。

今山田委員からありました高齢者に対する運賃の扱いですが、私も名古屋や東京みたいに、ある一定の年齢に達すると、定期券みたいなものを作って、それを一緒に持っていれば何度でも乗れるっていうものを作ったほうがいいというふうには思っています。

実際には作るのには問題があって、他人に貸しちゃうっていうケースが出てくるので、それを防ぐためには、顔写真のついたカードを作るとなると、結構コストがかかってしまうっていうことなんですね。このあしがるバスだけではコスト的にかなりきついであれば、例えばJR東海とか名鉄とか城北線とか、そういったところと連携して何かそういうものは作れないかなというふうには思います。

とにかく自家用車を使うということのを少しでも減らして欲しい。

そのためにどうしたらいいかということをお考えないといけないと思

います。

(加藤副会長)

ちょっと言いたいことが出たんですけど、私気になってたことが、資料2の真ん中の「誰もが快適に移動しやすいまち清須」とあるんですけど、本当に昔からそうなんですけど、“誰もが”と書くのは重いなと思ったんですけど、誰もがというと全員なんで、本当に全員が快適に移動できるっていうのは、困難だと思うんですよ。なのでそれを書いてしまうっていうのは、よほど頑張っただけをやるうとしてるっていうことじゃないと、やっぱり書けないっていうか、“誰もが”じゃない、“誰もが”なはずなのに、自分は具体的に動けないってなると虐げられてると思いますから、そういう方にとってはとても重いことだと思うんですね。なので慎重に考えないといけないということなので、そういう意味で先ほどの障害者、要介護者云々のことは大事だと思います。東京23区、特別区であるとか長久手市さんがやってると思うんですけど、そういう方なのか、普通に動けるようなお年寄りなのかっていう、これはもうだんだん衰えていくことが多いわけだから、そのうち変わってくるっていうことになるので、この人はこうでっていうふうにあいならぬと良くなって、いろいろなものを選んで、こういうふうだったら、こういうのが使えますよとかっていうふうにあいならぬに見せるのが大事ということで、そういう移動の全体のレシピっていうかそういうものを見せるっていうのは、すごくそういう福祉的なことやってるところだと、一覧みたいなのを出して、これは別に全員じゃなくてお年寄り或いはもう市民の皆さんみんなに見てもらえるようにするということをやっておられると、どこが穴かが分かるので、タクシーだと難しいけど、福祉有償運送の方が使い勝手がどうか分かったら、“誰もが”っていうふうに言えるので、作ってみるのもいいのかなと。配ってまたいろいろとご意見出るでしょうから、できることできないことあるんでしょうけど、進めていくことは意味があるかなと思いました。

あと敬老パスっていうか、名古屋だと敬老パスの話がありましたが、実は午前中授業して、敬老パスっていうのは、公平といえるのかどうかという、そういうのを学生に投げかけて何も出てこないんだけど、学生はまだ大分先ですが、私は54歳なので、65歳まであと11年経つと退職する前にもらえてしまうんですよ。65歳が退職ですから、65歳になって退職してない方はこれをもらったと僕に見せるわけで、本当にそれって、公平なのかどうかと、65歳でバリバリ教授をやっている先生が、それを持って、ほぼタダで電車バス乗り放題というわけで、まあ「敬老」だから、65歳まで生きた人を敬うっていう意味で受ける、どちらかというと福祉っていうよりは、そうやって65歳まで生きたことのご褒美でっていうことならば分かるかなっていうことだけど、今、65歳までは普通に多くの方が生きるので、始まったときに比べて30年以上経って大分平均寿命が伸びましたと、健康にもなりましたと、という中でどうなのかとかねいろいろ考えるとところがあるので、年齢で一律っていうのは私自身はどうなのかな、特に財政的に厳しいので、ていうのは思ってますけれど、所得で云々とかっていうのは、これはヨーロッパとかなんかに

では所得で決めるってのは結構あるんですよ。つまり支払えるかどうかというのが大事と。ただそれは日本では名古屋の敬老パス数については負担額をそこで決めてるので、ある意味取り入れてるということなんですけど、いずれにしてもとても難しい課題と思ってまして、自分の中では、ちょっと恐縮なんですけれど、1回100円という、もうだんだんとなくなりつつあるような、この運賃でやられているんであったとしたら、それ以上先のところはないんじゃないのかなと。

タダもおかしいし、だったら50円、60円とかっていうのを、そこまで下げて、どういう意味があるのかなとかっての考えることはあります。他のところだと、100円を、例えば200円とか150円に引き上げるときには、高齢者料金を作るとかそういうこともあると思います。今、清須の場合は、ここには何も書いてないから、100円、今の運賃体系を堅持するということでもいいわけですよ。それとも、何も言ってないからわからないとしますか。そこは、今の負担のあり方っていうのがどうなのかっていうのは、はっきりこの5年はこう行くぞとかっていうふうに書くんだったら、ちょっと安心できるとは言えるけど、もちろん事情があって、変えなきゃいけなくなったらどうやって説明するのってあるので、そこであえて書いてないかもしれないかもしれませんが、計画としては、特段の事情がなければ、これでいくとかってのは書いておくといいのかなと思うし、このような議論は必要で、書いてないのでつい忘れがちなんですけれど、この5年どうしていくかってことを書くところなんだから、この5年のうちにそういう高齢者の方とか障害のある方に対してどういう負担をしてもらったということは、何も書いてないのはちょっとよくないので、皆さんにもご意見いただいて、議論して入れていった方がいいのかなっていうのは、ちょっと思いました。

あとは、やはりバリアフリーとかユニバーサルデザインっていうのは、実際問題、清須市としてはどういうふうに考えているのか。これ意外とやっぱりちゃんと見れてないっていうか、要するに建物があって、それから道路があって、それから駅みたいな交通施設があったというときには、大体バリアっていうのはその間のところにあたり、切れ目のところがうまくできてないとかそういうことが見られるとかっていうことなんで、やっぱり俯瞰的に見られるのは市役所になるということなんで、市役所としてきちんとバリアフリーの計画とか策定していれば、問題ないんですけど、そこってどうなっていましたかね。ちょっと私ちゃんと把握してなかったんですけど、もし事務局で答えられるんだしたら、お答えいただければと思います。

(林次長兼課長)

企画政策課長の林です。

今運賃のお話がありましたけど、先生おっしゃる通りワンコイン100円ということで、続けさせていただいております。

今までそういった定期券であったりとか、回数券であったりとか、今の高齢者に対する優遇っていうのは、いろんな方面からご意見の方はいただいているところがございます。

それで今先生おっしゃった通り、ワンコインというのはできるだけ維持

して、そこを続けていくことで、そういった使いやすいコミュニティバスを続けさせていただきたいというところがございます。

もし、今後それが物価の高騰だったり経費面のところでどうしても圧迫されるということであれば、運賃の値上げも検討材料に入ってくると思いますので、そういった際には他の優遇措置だとかそういったものは検討させていただくものかなって考えております。

バリアフリー、ユニバーサルデザインの市の計画というものは、現在なかったと思いますので、そういったことも含めて、バリアフリーの所管部署だったりとか、関連するところと現状確認とかさせていただければと思っております。以上です。

(加藤副会長)

これは参考なんですけど 10 月 1 日に東浦町が路線を大きく変えましたけど、運賃については、基本的に変えてないということでした、東浦町の場合ですと、大人 2,000 円の 1 ヶ月の定期券があると、お年寄りの方はこれをたくさん買っておられる、2,000 円で乗り放題なんで、ただ東浦は、イオンがあるのでイオンに行く方が多いと。いうことで、実は小学生は 500 円なんですけど、東浦の場合はバスで通学する小学生がいて、そういう子はイオンに休日に通学用で買ってもらった定期券を使って、これはもう自己負担なんですけど、行かれてる或いは運賃子供は 50 円なんで、そういう感じです。

高齢者の運賃は常に要望があるんですけど、加藤さん冷たいって言われてるんですけど、実施してないです。

ところが東浦町は同じように計画改定したんですけど、そこで運賃は、現状維持とは書いていなくて、今後見直すことが考えられるというふうに言ってます。これずっと 100 円は安すぎるっていう議論があるんですよ。なので、議会とかでもかなり上げた方がいいんじゃないかっていう意見がありまして、それで変えているということですので、ここは大事なところですので、きちんと考えて、市の意見として言っていたければ、またそれをこの会議でも議論できるかなと思います。

あと、東浦町の場合は知多バスの路線もありまして、この辺で言う名鉄バスみたいなところなんですけど、知多バスの路線がちょっと重なってる場所があって、町の負担で 180 円から 100 円に引き下げて、全く同じように乗れるようにして、停留所も今まで乗り間違えないように別の場所だったんですけど同じ場所にずらして、10 月からは、東ヶ丘団地っていう巽が丘駅の近くの団地のところは実質的にかなり便利になりました。清須の場合は、民間のバスがありませんので、そういうことは関係ないんですけど、運賃は本当に皆さんにしっかり乗っていただく一方で、不公平にならないように負担をある程度はしていただく方がいいと。本当にタダっていうのは刈谷市とか阿久比町とか美浜町とかあの辺は無料なんですけど、無料だと全然上げることが出来なくて、刈谷市も数億円つぎ込んでるんですけど、やっぱり無料にすると、これも議会とかでもかなり揉めてますので、清須がこの 100 円を維持してるかどうかっていうことは、絶えず議論することが必要かなと思いますし、必要があればある事例はいろいろ知っておりますので、参考であればお伝え

します。

(多田委員)

名古屋タクシー協会の多田と申します。

先ほど林委員さん山田委員さん、また加藤先生からもいろんなご発言、ご意見等いただいております。

あしがるバスだけで市外へ出ていくというのは、私はちょっと無理があるなというふうに考えておりました、どうしても効率性という部分からするとなかなか難しいのかなと思います。

これは皆さんがそのつもりでおやりになればそれはいいんでしょうけども、そうではなくしてですね、私はタクシー事業者の団体の委員でございますので、もっとタクシーを上手に活用してくださいということ、確か前回の協議会でも発言させていただいた記憶がございます。

さらに具体的なことを申せば、この場にタクシー事業者がいないんですよ。つばめ自動車さんはバス事業者の立場でのご参加をいただいております。タクシー事業者は清須市内に2社あります。北名古屋市さんも、同じようにタクシー事業者を2社入れて、計画づくりのために協議会を作られました。ぜひタクシー事業者の委員を参画していただいてタクシー事業者と直に話ができる、そういう環境を作っていただければと思います。

もう1つ申し上げますと、これは今日の午前中でありましてけれども、名古屋交通圏の全自治体の皆様方に相乗りタクシーを上手に使えばこんなことができますよ。加藤先生にも、メールでお知らせをさせていただきました。そこにはいろんなことが書いてあると私は理解をしておりますが、私が作ったんですけれども、それをぜひ見ていただいて、清須市で何ができるかどうかということは、これは清須市の行政の担当者だけじゃなく、ここにいる方全員が考えることだと思います。

当協会のホームページで公開をしておりますので、ぜひそれを、私どもははっきり言ってあんまり宣伝能力ないものですから、ホームページ作っても誰もアクセスしないというね、ちょっとそういった難点があるんですが、ここを自治体の皆様方が情報発信をしていただく、いわゆる1つのコンテンツとして活用していただければ、多くの方に知っていただけるのかな。詳しいことをさらに申し上げればいろんなことがありますけれども、今日は時間の関係もあって詳細は省かせていただきますが、乗り合い事業じゃないタクシーで相乗りができますと、その代わり制約もありますと、それにはやはり清須市さんの予算というものが必ずついて参りますので、そこをどうやって清須市さんが、住民の方々のご意見を踏まえて対応されていくのか、最終的にはここに落ち着くんだらうなどは思っておりますが、そういう情報発信は私どもの協会のホームページでどんどんしております。

また先ほどタクシーのですね、福祉のタクシーチケット云々こういうお話もありましたが、名古屋交通圏の全自治体の情報も載せております。ただし、協力の得られない自治体もありますので、歯抜けになっている部分もあるかと思っております。そのホームページを見ていただくと、どこの市町が何をやっているか、これも分かるようになっておりますし、私

ども会員事業者がどこにあって何台ぐらいあって、どういう運賃を使っているのか、これもすべて分かるようになっております。

ぜひそういったことを情報発信をしていただきながら、皆さんに知っていただくと、そこから何かヒントを得ていただく、これが大事ではないのかなというふうに考えておりますので、ぜひご検討のほど、いただければと思います。

(鬼頭委員)

鬼頭です。

先ほど敬老パスみたいな話をちょっとしまして、私が考えている理由の1つとしましては、出来るだけ自動車の利用を抑えよう、公共交通機関を乗り換えてもらうを増やそうと。そのことが環境の問題に繋がってくる。ちょうど今、ここにチラシが入ってましたけど、そういうことを皆様方が、特に行政側で考えて欲しいですね。

例えばこのチラシにあるように、11月14日、12月13日、車の使い方を考えましようとして書いてあります。この1週間の間、清須市役所の職員全員が自家用車で通勤をしないと。公共交通機関だけで通勤をすることによって、その地域がいかに不便か、公共交通機関だけでは、移動が大変なんだってということ、1ヶ月間身をもって感じていただけるかというと思います。それだけにします。

(加藤副会長)

多田さんが仰ったことに確認事項があるんですけど、名古屋交通圏だからここは協議運賃は使えないと。

(多田委員)

使えます。準特地域は使えないです。

(加藤副会長)

今準特じゃないですか。そうなんですか。

でもその時に、相乗りを入れるってどういうイメージなんですか。ちょっとイメージがよくわからない。

(多田委員)

要するに清須市さんの場合は、先ほど2社のタクシー事業者があると言いましたけども、郡で言うと、もっと小さな事業者しかいない。

(加藤副会長)

具体的にどういう運行をするってということですか。その許可がどうこうではなく、どういう運行が考えられますか。イメージがないと、全然浸透しないんです。

(多田委員)

通常のタクシー車両となると、いわゆるセダン型4人5人乗りの車から、乗り合いタクシーのような10人乗りの車が活用できるわけですが

れども、通常の乗り合いバスのような、言ってみれば相乗りという形の運送ができますというのは簡単に言ってみればそういうことなんですけれども、それには、利用者を限定をしていただくか、予約型にさせていただくか、そのいずれかをクリアをしていただくと、さらに、低額運賃といまして、1人幾らですよ。100円 200円 300円、額はいろいろあるかと思えますけれども、そういったことを活用しようとする、タクシーの協議運賃という制度を使わないと、実質できない。こういったこともあって、去年の10月になりますけれども地域公共交通法が改正された折にですね、タクシーの協議運賃となるような制度ができて、その運用方法について、いろいろ運輸局さん、支局さんと相談をしてきた経緯がございます。それを最終的にまとめたものを、今日各自治体さんにメールでお知らせし、協会のホームページにもアップしたという経緯がございます。

(加藤副会長)

それは繰り返してしょ。そうじゃなくてそれで使って、例えば清須だったらどういことができるのか。

あと協議運賃にしなくたって、別にタクシーチケットでできることですよ。割り引けばいいってことですよ。現状でも割引はできる。だから別に協議運賃である必然性もないように思うんですよ。協議運賃にするっていうことは、今のまさに清須市民であろうとなかろうと関係なく使えるとかそういうことであつたら、あるんだと思うけど、清須市が清須市民じゃない人にタクシーチケット出さないでしょう。であつたら別に清須市の高齢の方だけにサービスするんだつたら協議運賃って要らないんじゃないのって僕はさっきそれを言ったんです。潤沢であるかないかは関係なく、相乗りの問題だよ。協議運賃の問題じゃないのではない。

そうすると、タクシー業界として相乗りってどうやったらできるのかっていう具体的なやり方を示してもらわないと、例えばさっきの中村日赤に行きたいとかあつたじゃないですか。

(多田委員)

事例も含めてホームページの方にアップさせていただいてるんですけども、例えば、北名古屋市の濟衆館病院のお話がありましたけれども、豊山さんもやっぱり同じ悩みを持っていたんですよ。

そこに要は、タクシーの相乗りというように、定額運賃で何か設定ができないかと。そこに協議運賃というものを使えば、1人幾ら本当に低い額でできるだろう。その代わり、これは自治体さんの負担も増える部分もありますので、そこをどうしていくのかという問題は確かにあると思いますが、やっぱり最終的には、予算の問題に行き着くのかなと私は思います。

(加藤副会長)

本当に低い額というのは、相乗りだと半額とか3分の1なんか低い額なるんだけど、相乗りなかなかしないんで、そうはならないと。結局額

は下げてるけど、補助でやるとしたら、タクシー補助、タクシーに対するチケットとかの補助と同じになるよねっていうところが分からない。

(多田委員)

今加藤先生が仰ったタクシーの運賃の半額云々というのは、これ実は平成3年に出た通達でありまして、配車アプリを使って、一定の同じ方向に向かっていくお客さんが、その途中で誰かと相乗りをすると、それによってその人1人あたりの運賃が、大体半額から6割程度になる、こういうものでありまして、実は制度としては随分前にできてるんですが、つい最近やっと東京でこれが動き出すということが、ネットのニュースに掲載をされている段階で、名古屋の事業者さんも、近々そういう制度は使っていこうということで取り組みはされてるようですが、実際にいつかということは、それはちょっとまだわかりません。

それは、ちょっと別に置いといてですね、そのタクシー運賃が半額になるとか、6割程度になるといふものとは全く違って、1人幾らという定額運賃を作るため、設定をするために、協議運賃を使ったらどうですかというのが、今日のお話でありまして、ここから先ちょっとなかなか難しい話になりますが、国交省さんの許認可制度の中で、1人200円とか300円のいわゆる低い額の定額の運賃については相乗りタクシーでは認められない、こういうことがわかっておりましたので、そこに協議運賃を活用すれば、ちょっと言い方変ですけども、何でもありという世界になるのかなというところでございます。

私からちょっとこれ以上はなかなか難しい説明になりますので、支局さんフォローしていただくとうれしいんですけど。

(宮川委員(代理))

運輸支局の渥美でございます。

いろいろ制度上で出来ること出来ないことがある中で、相乗りを使って、そういうテクニク的って言うとあれなんですけど、今でも乗合事業で、その協議が整えば、それを乗り合わせみたいなのができるっていうのは、やることは一緒なので、制度としてどう整理するかみたいなのところだと思います。清須市さんの方で、何かこの会議の中で皆さんはどういう形のことをやりたいんだみたいな話があれば、1つのやり方として、先ほどの多田専務が仰ったやり方もあるんじゃないかなと思いますので、よろしくお願いします。

(加藤副会長)

なので、別にだから、乗り合いにすればいいじゃないですかっていうことだけなんですよ。あとは別に乗用でもできるようになった。だからどっちでもできるので。でも、現状ではすべて乗り合いでもできたこと。だから今その相乗りができるようになったとかここで言われたって別に今できることを言ってるだけっていうふうにしかならないと。我々がこの計画で必要なのはそこじゃなくて、一体清須市でどういう移動を確保したいのかを考えてるので、そこはちょっとよく考えていただきたいなと。新しいことができることで清須市にこういうことができるんじや

ないかっていうことを提案していただくんだったら、ここでっていう意味もあると思うんですけどそうじゃないとしたら、皆さんどうやって対応したらいいのか分からないんじゃないですかとそういう感じがいたします。

ただ実際どうでしたっけ。これ事務局に聞きたいんですけど、市外の病院っていうのはどのぐらいニーズがありえて、その相乗りとかになるような需要としてつくれるのかどうかってのは検討されてますかね。

中村日赤であるとか済衆館とか、市民病院ってのはずっと出てくることだと思うんですけど僕の認識では多くないと、それほど多くないんで、しかも清須は広いので、清須のあるところから相乗りで行くっていうのは困難、だからまず順番に載せて行くとかね、これ近いのは飛島でやっている海南病院へ行く便、あれがそうですよね。飛島の中のいろんなところで乗れて、みんな乗ったら海南病院へ直接行くと、あれは利用が多く、やっぱ海南病院は人気高いんで行く人が多くバスもないと、いうことなんですよね。っていうのがつくれるんだったら、ぜひ清須でやったらいいなと思ってて、考えられるんですけどそれを飛島の場合は、現状は乗り合いで出来て、例えばこの市内の業者さんで、乗用で同じことやるって言うていただくんだたらぜひやっていただく。もちろん予算が必要な場合があるんですけどやっていただくみたいな話なんですよ。ただそういうニーズがどのぐらいあって、ちゃんとできるかどうかちょっと検討してないんで、現状で載せられないと思うんですけど、どうですか。ちょっと何か感触を言えますかその辺は。

(市江主任)

昨年実施しましたアンケート調査からしか判断できないんですけども、日ごろ通院はどこへ行きますかと聞いたところ、やっぱり名鉄病院が多い状況なので、名鉄病院で考えると、今の現状だと、名鉄電車を使って行っていたかっていう移動が多いのかなというふうには感じております。

(加藤副会長)

新川の南部とかだと、中村日赤も考えられるってことだから、以前湯吉郎から、それこそ豊公橋まで行けないかとかそういう検討してもしました。そうすれば、市バスに乗り換えられるんで中村日赤に行けるとか、そういうことも考えたことがありますけど、やっぱり利用が少ないだろうなと、湯吉郎からそこまでそんなに長くないんですけど折り返しもしなきゃいけないし、いろいろ考えるとそこまでやる必要ないかなっていうのでやめたっていう経緯がありました。

だからタクシーで行けるのはいいんだろうなと思うんですけど、やってみて本当に需要があるか把握するっていうのも考えられるかなと思いますけど、ちょっとそこまであまり分析してませんよね、現状。

実際総数で見ると、清須の方は名鉄病院が多いとなっているんで、名鉄病院だったら栄生駅すぐだよなとなっているので、出てこないっていうそういう経緯ということですね。

(前田会長)

ここで質疑等も終えまして、計画素案でございますので、委員さんから、ご意見、ご要望について検討していくこともあろうかと思えますけれども、本件に関しまして、事務局案の通り、ご承認いただくということによろしいでしょうか。

[異議なしの声]

ありがとうございます。

それでは、これで協議事項の議題を終わります。

3 その他

(前田会長)

以上で、本日予定されておりました議事は全て終了いたしました。

慎重にご審議いただきありがとうございます。

ここからは、次第の「3 その他」に移ります。

事務局から報告事項がありましたらお願いします。

(市江主任)

事務局から1点ご連絡させていただきます。

次回の交通会議の日程ですが、12月23日月曜日、10時から予定しております。後日、開催案内の通知の方を送付させていただきますので、ご確認くださいませようよろしくお願いいたします。

事務局からは以上です。

(前田会長)

最後に、この他のことで、何か委員の皆様からございますか。

(石屋委員(代理))

愛知県交通対策課の藤原と申します。今日は、石屋担当課長代理で出席させていただいております。

私の方からは、ちょっと議論の中でちょっと紹介あったんですけども、エコモビ実践キャンペーンのご案内でございます。

愛知県では、車や公共交通、自転車など賢く使い分けるライフスタイル「エコモビリティライフ」を県内運動として推進しております。その一環として県内の企業や団体の皆様に、エコ通勤始めエコモビに積極的に取り組んでいただくキャンペーンを実施しております。

皆様方におかれましても、ぜひご参加いただくとともに、企業団体の皆様への参加の働きかけにご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。対象になるのは、愛知県内企業や各種団体官公庁となりますので、よろしくお願いいたします。

詳細に関しては、愛知県交通対策課のモビリティサービス推進グループが窓口になりますので、そちらの方まで問い合わせをお願いいたします。私の方からは以上です。

(小林委員)

愛知県バス協会の小林といいます。この黄色いチラシのことでちょっと紹介させてください。

ドライバーの就職説明会の内容でございます。もうこれ開催が今週の土曜日ということで、本当にお知らせして、公募する期間はほとんどないんですけども、バス業界も大変深刻なドライバー不足ということで、特に珍しいイベントではないんですけども、今年で9回目になりますけど、今年はこういう厳しいということで、中部の大手事業者22社、それから中部以外の事業者も含めて30社今回集まるということです。

特に、皆様の身近なところでは、例えばお子さんやお孫さんが楽しみにしておられる遠足とか、修学旅行があると思うんですが、貸し切りバスの運転手も非常に深刻ということで、こういう行楽シーズンにはもう車が配車できないという、もうお断りするという、ちょっと子供たちに残念な結果になるのも大変ですので、業界も教育委員会等に分散してやって欲しいということで要望を出してるんですが、こういうことにならないように、こういう合同就職説明会を定期的を開催してるんですけども、ぜひ皆さん、関係者の方、近くの方に、時間がないんですけども、こういうイベントがあるよということで興味のある方に、お知らせしてもらえばなとは思っておりますのでよろしく願いいたします。

(前田会長)

その他、よろしいでしょうか。

では、以後の進行は、事務局へとお返ししたいと思います。

よろしく申し上げます。

4 閉会

(神野課長補佐兼企画政策係長)

それでは、これをもちまして、令和6年度第2回清須市地域公共交通会議を閉会いたします。

本日はご出席いただき、ありがとうございました。

問い合わせ先

企画部 企画政策課

052-400-2911 内線3214

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

会 長 前田 繁一

署名委員 山田 政勝

署名委員 林 巖